

あま 母校

伝統の川流れ津高百年

記念祭の成功めざす

千草光洞氏書



東京大学入学者渥美
奨学金制度を設立

昭和十九年卒の渥美俊一氏（日
本リテイリングセンター、チーフ
コンサルタント）の厚志によるも
の。東大入学者一名に、入学金六
万円と授業料年間十四万四千円、
月々六万円の学
資補助をするも
ので、返還を要
せず、来春より
適用されます。

昭和五十四年度感謝状

ことしの津高同窓会総会は、さる八月五日（日）午後一時半から津市丸之内の津商工会議所ホールで盛大に開催されました。約一五〇名におよぶ男女会員が次つぎとつめかけ、会場は満員の盛況。あいさつに立った吉原一真会長（三重県知事）は、いよいよ来秋にせまった母校創立一〇〇周年記念のことにふれ、その意義の深さを強調

同窓生一同の協力によって、かならず大成功をおさめましようと呼びかけました。来賓のあいさつにつづいて、現津高校長の澤下春男氏は、同窓生が常日頃から母校発展のため、格別に「協力」をいただいていることにたいし、深い感謝をのべ、一〇〇年祭執行にあたる学校の決意を表明しました。

学校側百年祭事業、事務局の長谷川寛先生より、百年祭記念事業、行事の計画について詳細な経過と説明があり、満場一致、これを了承。

ひきつづいて、懇親、交歓パーティーにうつりました。かわるがわるマイクをとっては、なつかしの母校愛唱歌をうたい、会場に青春はよみがえり、若き日の思い出に立ちかえりながら、あちらでもこちらでも感激の握手で旧交をあためあう姿がみられました。以下、津高百年祭の事業行事計画のうち、おもなものを紹介し、その成功完遂のための募金に、なお、いっそうのご協力をいたたくよう、会員のみなさんに訴えます。

記念館まもなく着工

同窓会が在校生にプレゼント

いよいよ今秋、着工されます。その内容はクラブハウスの建設で、創立百年記念として同窓会が後輩たちにおくるかけがえのないプレゼントです。

苛酷な学習と四つにとりくむ後輩、津高生たち。それゆえに、ともしれば欠落しがちな友情の場、ゆとりの場として、いま、クラブ活動の振興は必須とされています。百周年を機に、先輩と後輩を結ぶかけ橋としての記念館クラブハウスの建設は期待されています。

会員名簿三訂版を発行

昭和五十五年十月現在で同窓会員名簿を新しく編集発行します。これまで津高同窓会名簿は二回（昭和三九年版と昭和五一年版）発行され、同窓生の友情、交信に役立ってきましたが、第二版よりすでに、以後五年を経過することになり、充分、使用に堪えきれなくなっています。事務局では、同窓生の住居変更など異動のあるたびに、できうるかぎりチェックし、第二版に朱筆訂正が加えられていますが、友人、知人の異動をご存知の方は、同窓会事務局宛、すぐご一報いただき、完璧を期したいといっています。

百年記念誌の編集すすむ



本年度総会風景―金子安雄氏写す

経ヶ峰を一望に眺めるなつかしいあの運動場の一角、西側防風林のあたりに東向きに建設されます。総面積五二三平方メートル、各文

独立採算制で、約一千万円以上を投じて編集発行されるこの百年記念誌は、原色カラー印刷、約三〇〇〜四〇〇ページのうつくしい

すでに本年三月卒業生より一人宛三〇〇〇円が前納されています。同窓生のご負担は、もう少し、高くなります。予約申込制をとり

なされてきたことや、また校長以下六人の教職員、二八名の生徒名なども記録されています。詳細は記念誌に収録されます。

津高100年パリの集い

日本交通公社で活躍の村山和夫(昭和20年卒)、松永満弘(昭和33年卒)、小林久義(昭和35年卒)、加藤貴治(昭和36年卒)各氏の肝入りで、このほど、「津高同窓会パリの集い」が計画されています。

一中、三重校、新しい津高卒業生にいたるまで、母校同窓生は、華々しく西慶の大地に活躍されています。いよいよ地球もが庭、「文化芸術の都、パリでありましょう」と同封別紙のように呼びかけ、ご希望をのっています。



「明治13年第一回入学生」 <絵> 駒田 治夫氏

中庭に

山口誓子氏句碑も

津高校歌は、昭和二年二月に制定、発表されています。現代俳壇の第一人者、山口誓子氏の詩に、おなじみの故郷時澤氏作曲によるもの。津高同窓会によって歌いつがれ、名詩と名曲とは混然とけ合い、その格調は、代々、津高生の心にあふれ、心をむすび、無言の激励となっています。ゆかりの誓子氏から百年祭記念に句を頂戴しました。曰く、

若き日のけみを荒浪にも泳ぐ
誓子氏みすずからの揮毫による句碑が中庭に建ちます。句のころは、一中の島山に泳ぎゆきと、同窓校歌第四連とかいふ、と誓子氏。石材は紅縹縹母愛宕といっ

化クラブ、スポーツクラブの部室がスラリと並ぶ二階建、ほかに体育教官室や器具収納室にシャワーなど、関係設備が完備されます。竣工は来秋九月の予定です。

津中、県女跡に記念碑建立

一中の碑、県女の碑が、それぞれ、思い出が古河の一中跡(現、津市立西橋内中学校敷地内)と柳山の県立津高女校(現、三重県立津実業高校、幼稚園教員養成所敷地内)に建立されます。



『市民における音楽の夕べ』

東京混声合唱団を招き

東京混声合唱団は創立二五年の歴史にかがやく。合唱界の王者として知られるこの合唱団の構成は四〇名。指揮する人は田中信昭氏。わが国の合唱作品の初演を数多く手がけてきました。このほど交渉が成立、いよいよ来秋は、幅広いレパートリーをたずさえて津来津高百年祭に色彩をそえてくれます。昼は在校生を対象に、夜はひろく

もの。寄せられた原稿の整理を夏休み中にすてに終え、目下、印刷所の決定、レイアウト、編集へむかって大わらわ。

豊富な資料、写真などを駆使して母校百年の歴史を追う「百年史」の性格と同時に、親しみやすい幅広いよみものとしての「百年誌」の性格とを兼ねるものをめざしています。

いたずらに懐古趣味にのみ留せず、現在の在校生や父母も参加させて、縦横に津高を語る前向きなものでありたいというのが編集の基本方針です。

一中名物ポートルレースも

水、陸運動会で在校生と交流

「兎よ、蒼明につづきたる」ポートル部の歌は、ひとりポートル員にとまらず、津中が広く愛唱してきました。いくたびか全国制覇を果し、琵琶湖大会をはじめ水辺にこの歌声はとどろき、ポートル津中、の名を天下に知らしめました。

七健男児、オールをそろえて、岩田川をすべりゆく一中のポートルに、乙女たちは河畔にきて手をふっては、はにかんだものです。

百周年を記念してくりひろげら

記念美術展

藤島武二画伯ら 恩師作品ズラリ

世界の画匠、故藤島武二氏も、故鹿子木孟郎画伯も、共に津中学の教師にありました。披露された東京美術学校に転じられますが、これら天下の名作をはじめ、津中



野田教授(昭八卒)が 津中学古文書を発見

国立公文書館で発見された資料は、「公文録巡幸雑記第六巻」にあり、明治十三年七月六日、明治天皇が津高に巡幸の際、酒井校長が差し出した上奏書、それによると、当時、難解な英語で授業が



「市民における夕べ」として公演がきまっています。会場は三重県文化会館。チケットは、整理券として一、〇〇〇円。主なレパートリーに「日本の合唱音楽祭の領域とその地平」ほかがあります。

記念祭記録集発行も計画

来秋執行される記念祭諸行事を丹念に記録し、冊子にして編集発行することにもすでに計画されています。これも予約制をとりまします。これも予約制をとりまします。記念誌同様、お申込みください。頒価その他、まだ未定です。

母校讃歌公募

百周年記念「母校讃歌」を公募しています。同窓生、在校生共に元気にたのしく唱和できるもので、詞曲同時でも、また、先ず歌詞だけでも結構です。グループによる作詞作曲も大歓迎。記念式典などの席で発表披露される予定。現在、まだ、一、二篇しか応募がありませんが、同窓生、在校生、職員、ふるってご応募ください。審査の上、応分の賞金など、別途、定められています。

東京・大阪・京都 名古屋 支部総会のご案内

- (1) ことし、京都支部同窓会は、きたる十月十四日(日)、十一時より京都生研会館で。
- (2) ことし、大阪支部同窓会は十一月十八日(日)、阪神百貨店グリーンルームにて、十一時より。
- (3) ことし、名古屋支部同窓会は十二月二日(日)、十一時、ホテルニューナゴヤ。
- (4) ことし、東京支部同窓会は十二月八日(日)、一時半より、私学会館にて、よろしく。

来年度総会のご案内

- (1) 来年度の津高同窓会総会は昭和五五年八月三日(日)、午後一時半から津商工会議所にて。
- (2) 来年度の三重校部会総会は昭和五五年四月二十七日(日)午前十時から三重県福祉会館で。

